

2020年12月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、足もとでは持ち直しのペースが鈍化している」と、前回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある」から下方修正しました。下方修正は、本年5月以来です。
- 需要項目ごとの判断でも、個人消費について、「低い水準となっており、足もとでは持ち直しのペースが鈍化している」、観光についても「引き続き厳しい状況にあり、足もとでは持ち直しのペースが鈍化している」と下方修正しました。一方、住宅投資は、「横這い圏内の動きとなっている」と上方修正しました。その他の項目には、変更はありません。
- 雇用や金融面については、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。
- 本日公表した道北地域の日銀短観（12月調査）は、全産業の業況判断D1が+2（9月▲5、▲は「悪い」超過）と、2期連続で改善しました。「良い」超過となったのは、本年3月（+15）以来です。製商品・サービス需給判断は、前回、供給超幅を縮小した後、今回は供給超幅を若干拡大（9月▲19→12月▲20、▲は供給超過）しました。需給バランスは非製造業を中心に引き続き悪化した状態にあります。一方、生産・営業用設備判断（9月+3→12月▲3、▲は不足超過）は、サービス消費の持ち直しを受けて、非製造業を中心に不足超過に転化しました。雇用人員判断（9月▲36→12月▲34、▲は不足超過）は、前回、不足超幅が若干拡大しましたが、今回は若干縮小しました。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、11月、2か月連続で前年を上回りました。衣料品が引き続き低調であるものの、日用品、食料品は、底堅い動きを維持しています。また、家電販売は、白物が堅調であるほか、テレビ、エアコンが好調に推移するなど、全体として堅調な動きとなっています。
- 11月の新車登録台数は、除く軽が前年を若干下回りましたが、軽自動車、軽自動車を含めた合計は、前年を上回りました。合計は、2か月連続のプラスです。もっとも、除く軽が僅かですが前年を下回ったことに象徴されるように、足もとでは持ち直しのペースが鈍化しています。自動車ディーラーの店頭では、11月以降、感染症の拡大につれて来客数が減少傾向にあるなど、販売面への影響が徐々にみられるようになっていきます。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、11月、感染症の影響が引き続きみられるもとの、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも前年を大きく下回りました。10か月連続の前年割れです。国内旅行需要の緩やかな回復を受け、5月以降、前年比マイナス幅は縮小してきていましたが、11月はそうした動きが鈍化し、マイナス幅が拡大しました。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、11月は9か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、11月、地区によって差はみられますが、全体では前年を幾分下回りました。引き続きGoToトラベル事業等による持ち直しの動きがみられた一方で、感染症拡大を受けたキャンセルの動きもみられており、足もとでは持ち直しのペースが鈍化しています。旭川市内のホテル客室稼働率も、11月、前年を下回りました。こちらも5月を底に持ち直していますが、11月は、前年とのマイナス幅が拡大し、持ち直

しのペースが鈍化しています。

- 各地観光施設の入込みは、11月、ウトロ温泉が前年を上回りましたが、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーが前年を下回ったことから、合計でも前年を下回りました。一頃に比べれば、入込客数は回復していますが、感染症拡大を受けて、全体としては、足もとでは持ち直しのペースが鈍化してきています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、11月、上川が前年を上回りましたが、宗谷が前年を大きく下回ったことに加え、オホーツクも前年を下回ったことから、全体でも前年を下回りました。2020年4月以降、11月までの累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、10月、持家、貸家、分譲とも前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。基調としては、持家が振れを伴いながらも徐々に持ち直しているほか、貸家は底堅い動きとなっています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、10月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回りました。旭川は引き続き1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍超えとなったことから、全体では4か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、10月、旭川、稚内、北見、網走とも前年を下回り、この結果、4つの職業

安定所を合計した新規求人数でも、13か月連続で前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、11月、前年を上回りました。11月まで21か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 道北地域の日銀短観（12月調査）の事業計画では、2020年度の売上高、経常利益、当期純利益は、いずれも前年度対比で減少計画（前年度比：売上高▲10.1%、経常利益▲34.7%、当期純利益▲48.0%）ですが、9月調査からは上方修正（修正率：売上高+0.6%、経常利益+32.2%、当期純利益+18.5%）されています。この間、設備投資計画も、前年度対比で減少計画（同▲22.3%）ですが、前回、若干上方修正（修正率：+2.5%）の後、今回もさらに上方修正（同：+7.4%）されています。
- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き、感染症の帰趨とその影響が最大のポイントと考えられます。とくに、①観光、消費が感染症の動向を受けて、持ち直しの動きにどのような変化が生じるのかを、注意深く見て参りたいと思います。また、②雇用、所得、企業収益や設備投資計画にどのような影響が及ぶのか、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地の建設業者がこれまでどおり受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上